

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をあがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④互いの必要のために祈りましょう。

ディーゴ ガイド



2025.12.1-7

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

1日 月曜

ヨシュア



11:1 ハツオルの王ヤビンはこのことを聞いて、マドンの王ヨバブ、シムロンの王、アクシャフの王、
11:2 また、北方の山地、キネレテの南のアラバ、シェフェラ、西方のドルの高地の王たち、
11:3 すなわち、東西のカナン人、アモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、山地のエブス人、ヘルモンのもも、ミツパの地のヒビ人に人を遣わした。
11:4 彼らはその全陣営とともに出て来た。海辺の砂のように大勢の兵で、馬や戦車も非常に多かった。
11:5 これらの王たちはみな集まり、進んで行き、イスラエルと戦うためにメロムの水のほとりとともに陣を敷いた。
11:6 【主】はヨシュアに告げられた。「彼らを恐れてはならない。明日の今ごろ、わたしは彼らをここごとく、イスラエルの前で刺し殺された者とするからだ。あなたは彼らの馬の足の筋を切り、彼らの戦車を火で焼け。」
11:7 ヨシュアはすべての戦う民とともに、メロムの水のほとりにいる彼らを急襲した。
11:8 【主】は彼らをイスラエルの手に渡された。イスラエルは彼らを討ち、大シドンおよびミスレフォト・マイムまで、東の方ではミツパの谷まで彼らを追い、一人も残さず討った。
11:9 ヨシュアは【主】が告げられたとおりに彼らにした。彼らの馬の足の筋を切り、彼らの戦車を火で焼いた。
11:10 ヨシュアはそのとき引き返して、ハツオルを攻め取った。その王は剣で討った。ハツオルは当時、これらすべての王国の盟主

だったからである。

11:11 ヨシュアたちはそこにいたすべてのものを剣の刃で討ち、聖絶した。息のある者は一人も残らなかった。彼はハツオルを火で焼いた。

11:12 ヨシュアは、これらの王たちのすべての町を攻め取り、そのすべての王たちを剣の刃で討ち、聖絶した。【主】のしもべモーセが命じたとおりであった。

11:13 イスラエルは、丘の上に立っている

町々はどれも焼かなかった。ただし、ヨシュアは例外としてハツオルだけは焼いた。

11:14 これらの町々のすべての分捕り物と家畜を、イスラエルの子らは戦利品として自分たちのものとした。人間だけはみな剣の刃で討ち、根絶やしにした。息のある者は一人も残さなかった。

11:15 【主】がそのしもべモーセに命じられたとおりに、モーセはヨシュアに命じ、ヨシュアはそのとおりに行った。【主】がモーセに命じられたすべてのことばを、彼は一言も省かなかった。

戦いの勝敗は軍馬や軍勢の多さによってではなく、主の力によります。成功は私たちの能力によらずに、主の力、すなわち主のみこころにかかって主が戦ってくださるのかどうかにかかっているのです。

カナンの諸国は罪深い民であり、主のさばきを受けるべき民でしたが、ギブオンのようにあわれみを求める者もありました。一方ここにある多くの国々は主に抗い、イスラエルを滅ぼそうと戦ってきました。そこに主の戦いたのです。さばかれるべき者も主のあわれみを求めるなら救われるというのは今も変わりありません。

ヨシュアは「主がそのしもべモーセに命じられたとおりに」にすべて行いました。主への忠実さは、

また主の働き人や指導者への忠実さとなるのです。それゆえ主はヨシュアに成功を与えてくださったのです。

敵の多さに恐れず、主への従順を行いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2日 火曜

ヨシュア



争はやんだ。

「その地に戦争はやんだ。」とあります。イスラエルが来る前から、その地の諸国は覇権を争って殺し合いをしていたことが伺えます。歴史の常識として当然そのように考えられるでしょう。強力な支配者が現れれば戦いは止みますが、民は奴隷のように支配されるのが当時の社会です。結果的にイスラエルは平和と民の幸いをもたらしたということになります。

「彼らの心を頑なにし」というのは、神が罪まで犯させたという意味ではありません。人には自由意志がありますから、罪は彼らの意思によるものです。それは神様が彼らの思いをコントロールしなかったということです。神に敵対する者は自分の意志によって滅びに向い、救われる者は神様のあわれみによって、罪に気づかせていただくのです。

これらは永遠の救いと滅びのひながたです。今は救いのとき恵のときですから、神様のあわれみに頼って福音を伝えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

11:16 ヨシュアはこの全地、すなわち、山地、ネゲブの全地域、ゴシェンの全土、シェフェラ、アラバ、イスラエルの山地とそのシェフェラを奪い取った。

11:17 彼は、セイルへ上って行くハラク山から、ヘルモン山のふもとの、レバノンの谷にあるバアル・ガドまでを攻め取った。その王たちをことごとく捕らえ、彼らを討って殺した。

11:18 長い間にわたってヨシュアはこれらすべての王たちと戦った。

11:19 ギブオンに住民であるヒビ人以外に、イスラエルの子らと和を講じた町は一つもなかった。イスラエルの子らは戦って、すべてを奪い取った。

11:20 彼らの心を頑なにし、イスラエルに立ち向かって戦わせたのは、【主】から出たことであった。それは、彼らを容赦なく聖絶するため、【主】がモーセに命じられたとおり、に彼らを根絶やしにするためであった。

11:21 そのときヨシュアは行って、アナク人を山地、ヘブロン、デビル、アナブ、ユダのすべての山地、イスラエルのすべての山地から断った。その町々とともにヨシュアは彼らを聖絶した。

11:22 こうしてアナク人は、イスラエルの子らの地には残らなかった。ただガザ、ガテ、アシュドデに残るのみとなった。

11:23 ヨシュアはすべて【主】がモーセに告げられたとおりに、その地をことごとく奪い取った。ヨシュアはこの地を、イスラエルの部族への割り当てにしたがって、相続地としてイスラエルに与えた。そして、その地に戦



3日 水曜

ヨシュア



12:1 ヨルダンの川向こう、日の昇る方で、アルノン川からヘルモン山までの全東アラバにおいて、イスラエルの子らが討ち、占領した地の王たちは次のとおりである。

12:2 ヘシュボンに住んでいた、アモリ人の王シホン。彼はアルノンの溪谷の縁にあるアロエルから、その溪谷の中、およびギルアデの半分、そしてアンモン人の国境ヤボク川まで、12:3 またアラバ、すなわち、キネレテ湖の東まで、またアラバの海すなわち塩の海の東まで、ベテ・ハ・エシモテへの道まで、そして南はピスガの傾斜地のふもとまでを支配していた。

12:4 アシュタロテとエデレイに住む、レファイムの生き残りの一人である、バシヤンの王オグの領土。

12:5 彼はヘルモン山、サルカ、ゲシュル人とマアカ人との国境に至るバシヤンの全土、ギルアデの半分、ヘシュボンの王シホンの国境までを支配していた。

12:6 【主】のしもべモーセとイスラエルの子らは、彼らを討った。【主】のしもべモーセはルベン人とガド人と、マナセの半部族に、その地を所有地として与えた。

12:7 ヨルダン川のその反対側、西の方で、レバノンの谷のバアル・ガドから、セイルへ上るハラク山までで、ヨシュアとイスラエルの人々が討ったその地の王たちは、次のとおりである。ヨシュアはイスラエルの部族に、彼らへの割り当てにしたがって、この地を所有地として与えた。

12:8 この王たちは山地、シェフェラ、アラバ、傾斜地、荒野、ネゲブに住んでいて、ヒッタ

イト人、アモリ人、カナン人、ペリジン、ヒビ人、エブス人であった。

12:9 エリコの王、一人。ベテルの隣のアイの王、一人。

12:10 エルサレムの王、一人。ヘブロンの王、一人。

12:11 ヤルムテの王、一人。ラキシユの王、一人。

12:12 エグロンの王、一人。ゲゼルの王、一人。

12:13 デビルの王、一人。ゲデルの王、一人。

12:14 ホルマの王、一人。アラドの王、一人。

12:15 リブナの王、一人。アドラムの王、一人。

12:16 マケダの王、一人。ベテルの王、一人。

12:17 タブアハの王、一人。ヘフェルの王、一人。

12:18 アフェクの王、一人。シャロンの王、一人。

12:19 マドンの王、一人。ハツオルの王、一人。

12:20 シムロン・メロンの王、一人。アクシャフの王、一人。

12:21 タアナクの王、一人。メギドの王、一人。

12:22 ケデシュの王、一人。カルメルスの王、一人。

12:23 ドルの高地の、ドルの王、一人。ギルガルの王、一人。

12:24 ティルツアの王、一人。全部で三十一人の王である。

イスラエルがこれほど多くの国々を征服したことは驚きです。これらは一度に勝利したのではなく、その一つ一つは主に従って勇気を持って戦っ

た結果です。

主は同様に私たちの戦い、従いをも覚えていてくださいます。先の長い道の地でも、たくさんの仕事を抱えて困惑していても、主が一つ一つに力を与えてくださいます。

主の御手の中にあることを確信し、安心してつつチャレンジしていきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 4日 木曜

ヨシュア



13:1 ヨシュアは年を重ねて老人になっていた。【主】は彼に告げられた。「あなたは年を重ね、老人になった。しかし、占領すべき地は非常にたくさん残っている。

13:2 残っている地は次のとおりである。ペリシテ人の全地域、ゲシュル人の全土。

13:3 エジプトの東のシホルから、北は、カナン人のものと見なされているエクロンの国境まで、すなわち、ペリシテ人の五人の領主が支配する、ガザ人、アシュドデ人、アシュケロン人、ガテ人、エクロン人の地と、南のアビム人の地。

13:4 カナン人の全土とシドン人のメアラ、アモリ人の国境のアフェクまでの地。

13:5 ゲバル人の地と、ヘルモン山のふもととのバル・ガドからレボ・ハマテまでの、レバノンの日の昇る方の全域。

13:6 レバノンからミスレフォテ・マイムまでの山地の全住民、すなわちすべてのシドン人。わたしは彼らをイスラエルの子らの前から追い払う。わたしがあなたに命じたとおり、あなたはその地をイスラエルに相続地としてくじで分けよ。

13:7 今、この地を九部族とマナセの半部族に相続地として割り当てよ。」

13:8 ルベン人とガド人はマナセの残りの半部族と並んで、ヨルダンの川向こうである東側で、モーセが自分たちに与えた相続地を受け取っていた。【主】のしもべモーセが彼らに与えたとおりである。

13:9 アルノンの渓谷の縁にあるアロエルから、その渓谷にある町、またディボンまでのメデバの全台地、

13:10 ヘシュボンで王であったアモリ人の王シホンの、アンモン人との国境までのすべての町、

13:11 ギルアデ、ゲシュル人とマアカ人の領土、ヘルモン山全域、サルカまでのバシャン全域、

13:12 アシュタロテとエデレイで王であった、バシャンのオグの王国全域。オグはレファイムの生き残りであった。モーセは彼らを討ち、追い払った。

13:13 しかし、イスラエルの子らは、ゲシュル人とマアカ人を追い払わなかったので、ゲシュルとマアカはイスラエルのただ中に住んだ。今日もそうである。

13:14 モーセは相続地をレビ部族だけには与えなかった。主が約束されたとおり、イスラエルの神、【主】への食物のささげ物こそが彼らへのゆずりの分である。

ヨシュアにはまだ使命が残されていました。このように私たちはみなこの世にある限り、使命があって生かされているのです。それはまたヨシュアのような勇士の資質でもあります。主はよき恵と使命を備えてくださいますから、期待しつつ前進しましょう。結果的に勇士のように事を成し遂げる勇士となれるでしょう。

マナセ族には土地が与えられていましたが、レビ族には与えられていませんでした。「【主】への食物のささげ物こそが彼らへのゆずりの分」であったとあります。信仰者にとっては、見えるものだけが相続であって恵であるとは限りません。主のために働けることが大きな恵なのです。

それゆえに支えられ、特別な喜びがあるからです。見えないものよりもむしろそのようなものが幸いの源であることを知しましょう。心や家庭の平和、使命に生きる喜びややりがい、主のみわざを見る特権など、感謝しつつさらに求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 金曜

ヨシュア



13:15 モーセは、ルベン部族の諸氏族に相続地を与えた。
13:16 彼らの地域は、アルノンの溪谷の縁にあるアロエルから、その溪谷にある町、またメデバの全台地、
13:17 ヘシュボンと、台地にあるすべての町、ディボン、バモテ・パアル、ベテ・パアル・メオン、
13:18 ヤハツ、ケデモテ、メファアテ、
13:19 キルヤタイム、シブマ、谷間の丘にあるツエレテ・ハ・シャハル、
13:20 ベテ・ペオル、ピスガの傾斜地、ベテ・ハ・エシモテ、
13:21 台地のすべての町、ヘシュボンで王であったアモリ人の王シホンの全王国。モーセはシホンと、その地に住む、シホンの首長であったミディアンの君主たち、すなわち、エウイ、レケム、ツル、フル、レバを討った。
13:22 これらの刺し殺された者に加えて、ベオルの子、占い師パラムをイスラエルの子らは剣で殺した。
13:23 ルベン族の地域は、ヨルダン川とその地域である。これがルベン族の諸氏族の相続地で、その町々とそれらの村々である。
13:24 モーセは、ガド部族、すなわちガド族の諸氏族に相続地を与えた。
13:25 彼らの地域はヤゼル、ギルアデのすべての町、アンモン人の地の半分で、ラバに面するアロエルまで、
13:26 ヘシュボンからラマテ・ハ・ミツパとベトニムまで、マハナインからデビルの国境まで。
13:27 谷間ではベテ・ハ・ラム、ベテ・ニム

ラ、スコテ、ツァフォン。ヘシュボンの王シホンの王国の残りの地、すなわち、ヨルダン川とその地域では、ヨルダンの川向こう、東の方、キネレテ湖の端まで。
13:28 これがガド族の諸氏族の相続地で、その町々と村々である。
13:29 モーセは、マナセの半部族に相続地を与えた。それはマナセの半部族の諸氏族に属する。
13:30 彼らの地域はマハナインからバシヤン全域、バシヤンの王オグの全王国、バシヤンのハボテ・ヤイル全域にある六十の町、
13:31 ギルアデの半分、バシヤンのオグの王国の町アシュタロテとエデレイ。これらは、マナセの子マキルの子孫、すなわち、マキル族の半分の諸氏族に属する。
13:32 これらは、ヨルダンの川向こう、エリコの東側にあるモアブの草原で、モーセが割り当てた相続地である。
13:33 レビ部族にはモーセは相続地を与えなかった。主が彼らに約束されたとおり、イスラエルの神、【主】が彼らへのゆずりである。

ルベン部族、ガド部族、マナセ部族の半分に与えられた地域について書かれています。彼らは家畜が多く、牧畜に適した地を求め、認められました。それでヨルダン川の東側すなわち渡る前の側に住むこととなったのです。

ただしヨルダン川の向こうでの戦いには参戦することを求められ、彼らはその責務を果たしたのです。彼ら自身の土地は戦わずとも手にあったものですが、共同体の一員として神様からの使命を果たしました。これはまさに今の教会の働きにも言えることで、自分には直接関係ないからといって、傍観するのではなく、共に犠牲を払って働く

のが主のみこころであるということが分ります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 土曜

ヨシュア



14:1 イスラエルの子らがカナンの地でゆずりとして受け継いだのは、次のとおりである。祭司エルアザルと、ヌンの子ヨシュアと、イスラエルの子らの部族の一族のかしらたちは、その地を彼らに

14:2 相続地としてくじで割り当てた。

【主】がモーセを通して、九部族と半部族について命じられたとおりである。

14:3 二部族と半部族には、ヨルダンの川向こうにモーセがすでに相続地を与え、レビ人には彼らの間に相続地を与えていなかった。

14:4 ヨセフの子孫はマナセとエフライムの二部族になっていたからである。また、レビ族には、住む町と所有する家畜の放牧地以外には、何の割り当て地も与えなかった。

14:5 イスラエルの子らは【主】がモーセに命じられたとおりに行い、その地を相続地として割り当てた。

14:6 ユダ族の人々がギルガルのヨシュアのとこにやって来た。その一人ケナズ人エフネの子カレブがヨシュアに言った。「【主】がカデシュ・バルネアで、私とあなたについて神の人モーセに話されたことを、あなたはよくご存じのはずです。

14:7 【主】のしもべモーセがこの地を偵察させるために、私をカデシュ・バルネアから遣わしたとき、私は四十歳でした。私は自分の心にあるとおりを彼に報告しました。

14:8 私とともに上って行った私の兄弟たちは民の心をくじきました。しかし私は、私の神、【主】に従い通しました。

14:9 その日、モーセは誓いました。『あなたの足が踏む地は必ず、永久に、あなたとあな

たの子孫の相続地となる。あなたが私の神、【主】に従い通したからである。』

14:10 ご覧ください。イスラエルが荒野を歩んでいたときに、【主】がこのことばをモーセに語って以来四十五年、【主】は語られたとおりに私を生かしてくださいました。ご覧ください。今日、私は八十五歳です。

14:11 モーセが私を遣わした日と同様に、今も私は壮健です。私の今の力はあの時の力と変わらず、戦争にも日常の出入りにも耐えうるものです。

14:12 今、【主】があの日に語られたこの山地を、私に与えてください。そこにアナク人がいて城壁のある大きな町々があることは、あの日あなたも聞いていることです。しかし【主】が私とともにいてくだされば、【主】が約束されたように、私は彼らを追い払うことができます。」

14:13 ヨシュアはエフネの子カレブを祝福し、彼にヘブロンを相続地として与えた。

14:14 このようにして、ヘブロンはケナズ人エフネの子カレブの相続地となった。今日もそうである。彼がイスラエルの神、

【主】に従い通したからである。

14:15 ヘブロンの名は、かつてはキルヤテ・アルバであった。これは、アルバがアナク人の中の最も偉大な人物であったことによる。こうして、その地に戦争はやんだ。

カナンの地を勝ち取れば安泰かという、そうではありません。人間は取り分得たがいの領域で、部族が自己主張ではなく主に従ったことを表します。互いの納得には、人の意向が入らない領域での決定が必要です。

教会でもどちらの意見が採用されるかというような決断に迫られることがあります。互いに主の御心と納得することが重要です。(多くの場合、信仰の弱い人の言い分が通り、その後愛を持って相手を受け入れた人が祝福をうけるようです...)

カレブは有力者でしたが安泰な土地を求めずに、むしろ更なる働きを買って出ました。そこに主の祝福はあるのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



7日 日曜

ヨシュア



15:1 ユダ部族の諸氏族がくじで割り当てられた地は、エドムの国境に至り、その南端は、南の方のツインの荒野であった。

15:2 南の境界線は、塩の海の端、南に面する入江から

15:3 アクラビムの坂の南に出てツインを過ぎ、カデシュ・バルネアの南を上ってヘツロンを過ぎ、アダルへ上ってカルカへ回り、

15:4 アツモンを過ぎてエジプト川に出る。境界線の終わりは海である。これがあなたがたの南の境界線となる。

15:5 東の境界線は塩の海で、ヨルダン川の河口までとなる。北側の境界線は、ヨルダン川の河口、海の入江から始まる。

15:6 その境界線はベテ・ホグラを上り、ベテ・ハ・アラバの北を過ぎる。それから境界線はルベンの子ボハンの石を上る。

15:7 さらに境界線はアコルの谷間からデビルに上り、谷の南のアドミムの坂の反対側にあるギルガルに向かって北上する。それから境界線はエン・シェメシュの水を過ぎ、その終わりはエン・ロゲルであった。

15:8 さらに境界線はベン・ヒノムの谷を上ってエブス、すなわちエルサレムの南の傾斜地に至る。それから境界線は、ヒノムの谷を見下ろす西の方の山の頂、レファイムの谷間の北の端を上る。

15:9 さらに境界線は、この山の頂からメ・ネフトアハの泉の方に折れ、エフロン山の町々に出る。それから境界線はバアラ、すなわちキルヤテ・エアリムの方に折れる。

15:10 さらに境界線はバアラから西へ回ってセイル山に至り、エアリム山の傾斜地、すな

わちケサロンの北側を過ぎ、ベテ・シェメシュに下り、ティムナを過ぎる。

15:11 そして境界線はエクロンの北の傾斜地に出る。それから境界線はシカロンの方に折れ、バアラ山を過ぎ、ヤブネエルに出る。境界線の終わりは海である。

15:12 西の境界線は大海とその沿岸である。これがユダ族の諸氏族の周囲の境界線である。

くじというのは偶然のものです。そこには主が働かれたことが分ります。ユダ族の子孫から救い主イエス様が誕生するからです。ユダは死海の西側の広い地域を得ました。後にエルサレムに神殿が建てられ、政治と宗教の中心となったのです。

またユダ族の始祖ユダは嫁と姦淫するという罪を犯してしまいましたが、主はその汚名を取り除き、恵を与えてくださいました。罪の報いは受けなければなりませんでしたが、主は愛を示されるお方なのです。

偶然のいたずらのように見えるような、自分の意志が繁栄されない結果であったとしても、主の全能の御手は確かですから、そこに主の御計画を信じましょう。そして信頼して受け入れ、つぶやかずに進んでみましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

